

# 公園の中に古墳が！

## 猪方小川塚古墳公園 開園記念特集



いよいよ、猪方小川塚古墳が歴史公園として4月に開園します。ガクチキでは古墳の保存・整備についてご検討いただいた考古学の専門家である谷川章雄先生、池上悟先生、文化財保存科学の専門家である松井敏也先生にお話を伺い、古墳のことや猪方小川塚古墳での取組について語っていただきました。池上先生のお話は下段を、谷川先生・松井先生のお話は6・7ページ目をご覧ください。

### 教えて池上先生 ～古墳について聞きました～

-そもそも古墳ってなあに？-

一言でいうと古いお墓だな。ただ、古墳っていうと古墳時代（3世紀半ば頃から6世紀代）に造られた地域のえらい人の大きいお墓って考えるといいかな。決まったやり方で造られているけれど、造られた時期や場所、えらさによって大きさや形が違ってくるんだな。

-いろいろな形の古墳があるけれど、誰でも自由に造ってよかったの？-

だめだめ（笑）それなりの人しか造っちゃいけないの、前方後円墳とかはね。造るのも専門の職人さんたちがいて、でないと前方後円墳の形は造れないからなあ。だから、一番えらい人は前方後円墳。でも、古墳のほとんどは円墳なの。猪江の古墳もほとんど円墳。ただ亀塚古墳は、ホタテ貝の形をしているけど、あれは前方後円墳の一つだな。この辺で一番えらい人のお墓だな。

-亡くなった人はどこに眠っているの？-

古墳のってぺんに棺に入れて埋めてあげたり、石室っていうトンネル状の石造りの部屋に眠らせてあげたり、いろいろだな。猪方小川塚古墳は、軟らかい石で造った石室を持っているな。

-どんな人が埋葬されているの？-

一般庶民ではなくて、地域を治めたえらい人だな。学校でいうとどうだろう、最初は校長先生くらいかな。次第に広がっていった副校長先生くらいまでは埋まっているかな。

-埴輪はなぜ置いてあるの？-

昔は生け贄だといったり、土が崩れないようにしているといったり、いろんな説があったな。でも、亡くなったえらい人にまつわる儀式の様子を表現しているんじゃないかな、たぶん。埴輪は、台と壺の形から始まって、それがくっついて筒の形になって、そのあと人や馬などの

形が出てくるんだな。

-猪方小川塚古墳によせて-

北関東の古墳は、硬い石を使っていて、あまり手がかからないけど、猪方小川塚古墳の場合は、切石の軟らかい石で造られた石室をいかに見せるかで、苦労したと思うよ。そういう意味では、猪方小川塚古墳が初めての試みになるかな。ほとんどが埋め戻してレプリカを見てもらうんだから。実物を現地で見てもらって、古墳ってこういう風に造られているんだなって、理解を深めてもらえるといいね。

池上悟先生  
立正大学教授  
専門は考古学  
東国の古墳研究  
の第一人者  
終末期の古墳に  
ついて多くの研  
究がある

